

☆津市立美里中学校区の取組

◆事業概要



1 中学校区の現状と課題

中学校区は、少子高齢化、過疎化により、児童生徒数が減少しています。そのため、子ども同士の学び合いや競い合いの場が少なく、向上心に欠けたり、集団の中でのコミュニケーション力が不足がちになったりする等の課題がみられます。また、不安な気持ちや悩みを持ち、自尊感情が低い子どももおり、どのように支援を進めていくかが中学校区の大きな課題としてあります。

このような現状から、今まで各学校が担ってきた学校・家庭・地域の連携、人権啓発、地域での体験活動を引き続き行うためにも、地域の子どもの育ちを支えていくネットワークづくりが必要であると考えました。

2 課題解決のための主な取組

(1)子どもをサポートする大人の研修会

美里人権フェスティバルにおいて、子どもの学び館代表取締役の福永宅司さんを講師に招き、一人芝居「ももこ」を観劇し、多くの保護者や地域住民が、命、家族、仲間について考える機会となりました。

また、各小学校区では地域の人権ネットワークの活動を進め、子どもの成長を支援していくために、人権講演会を行いました。講演会を通じて、人権について多くの人が自らの生活を振り返り、子ども達の成長や支援について考えることができました。

(2)地域の人材を生かした出会い学習支援

天体に詳しい地域の方が講師になり、親子での参加を基本とした親子星空ウォッチングを夏、秋、冬の3回開催しました。観測会では、子どもを囲んで地域の人たちがつながる機会にもなりました。

また、子ども達が、いきいきと活動し、自尊感情を育てていくことをめざし、地域在住の写真家の方を講師に、ふるさとフォト撮影会を実施しました。子ども達は、美里町を歩きながら、自分の住んでいる身近な場面や風景等にカメラのレンズを向けることで、その中にある魅力を発見する機会となりました。



「夏の星座」観測会

(3)美里人権フェスティバルへの支援

演劇を通し、表現する力を養うことを目的に、「美里人権フェスティバル」において、子ども達による人権ミュージカルの上演を行いました。

練習では、子ども達に表現することの楽しさを感じさせ、自信と自立心を育てることで、一人ひとりの自尊感情を高めていきたいと考えました。演技指導については、美里町で創作劇活動を行っている演出家の鳴海康平さんをはじめ、美里にゆかりのある人達が中心になり、子ども達一人ひとりに支援を行いました。美里人権フェスティバル当日、子ども達は緊張しながら、自分のできる表現で精いっぱい演技を行いました。観客からは、子ども達のいきいきとした姿に大きな拍手が送られ、子ども達にとって貴重な経験になるとともに、伝えようとする、そして思いを受け止めようとする大切さなど多くのことを学ぶことができました。



人権フェスティバルでの上演

美里人権フェスティバルでは、中学校の人権サークル Rainbow の会の実行委員の生徒が受付を行ったり、高校生の人権サークル A S U K A のメンバーが司会を務めたりする等、子ども達が運営に参画して活動を行いました。

また、親子星空ウォッチングやふるさとフォト撮影会等の活動について展示発表を行い、様々な取組への参加そのものが、子どもを支援し、人権を大切にする美里のネットワークづくりであるという意識を来場者に持ってもらえるように工夫しました。

◆実践を振り返って

地域と学校が連携して取組を進めたことにより、子どもから大人までが世代を越えて、校区内のつながりをつくることができました。また、子ども達は、地域の様々な人との出会いを通して、その生き方に学び、自らの自尊感情や学習意欲の向上につなげることができました。今後さらに、協力、協働できるよう組織体制を整備していくことで、子ども達が安心感をもって過ごせる環境作りに取り組んでいきたいと考えます。